血液透析患者の肝細胞増殖因子 HGF と動脈硬化との関連性

渡辺内科クリニック〇渡辺幸康・斉藤浩次・柿沼敦子・山本登

【はじめに】肝細胞増殖因子(hepatocyte growth factor：HGF)は 1984 年中村らによってラットの血小板より精製され, 1989 年クローニングされた。HGF の生理活性は肝細胞以外に,多数の上皮細胞,内皮細胞の増殖活性作用を,さらには細胞分化,細胞遊走,器官形成,抗アポトーシス,血管新生作用をもつことが明らかとなり,近年,再生医療の分野で応用されている。しかし,血液透析患者の HGF と動脈硬化との関連性についてはなお不明の点が多い。今回われわれは血液透析患者において, HGF と各種動脈硬化マーカーとの臨床的関連性,さらには,生命予後との関連性についても検討を加えた。

【対象および方法】血液透析患者(HD 群)：79 例について, ABI フォルムを測定し,一般血液・生化学検査, ELISA 法で血清 HGF 濃度を測定し,動脈硬化マーカーとの関連性および生命予後についても検討した。

【結果】HD 患者の血中 HGF 濃度は単回帰で透析期間・拡張期血圧・脂質系と相関し,重回帰で年齢・糖尿病と相関を示した。また,血清 HGF は単回帰で baPWV と正の相関を示し,重回帰分析でも baPWV の有意な独立変数として採択された。また, Kaplan-Meier 法での生命予後の解析では HGF≧2.7ng/mL の群が HGF＜2.7ng/mL の群にくらべて有意に生命予後が悪かった。

【結論】血液透析患者では血清 HGF は動脈硬化の進展度と有意な関連性が認められ,生命予後とも関連することが示された。